

基本的な考え方

◎ 長崎県中学校総合体育大会開催基準

「18の※抽選方法について（申し合わせ事項 H12年度より※H25年度改訂）」

- (1) フリー抽選を基本とする。
シードするときは、団体上位4以内・個人上位8以内とする。その時、原則として県中体連競技別新人大会（新人大会をしない競技は、前年度大会）を参考資料とする。ただし、それ以外の大会で全県下的な競技レベルを見ることのできるものであれば、競技団体の行った大会のものも参考にしてもよい。
- (2) 初回戦で、同一地区は当たらないようにする。リーグ戦についても、同じ初回戦とみなす。シードされているチームが初回到同一地区と当たる場合は、2回戦とみなす。
- (3) 2チーム出場の地区は二つの山に分ける。3チーム以上出場の地区は上位1・2代表を二つの山に分け、残りのチームはフリー抽選とする。
- (4) 詳細については、各専門部の申し合わせ事項による。

◎ シード権を持っている場合は、上記(3)「2チーム出場の地区は二つの山に分ける」は適用せず、シード権を優先する。

◎ 第3・4シードの考え方（3位決定戦を行わない場合）について、優勝校に準決勝で負けた学校（地区）を第3シード、準優勝校に準決勝で負けた学校（地区）を第4シードとする。左の山から順に第1、第4、第3、第2にシードする。

◎ シード対象校並びに地区が出場していない場合は、シード順を繰り上げる。

◎ 地区シードの考え方

（例）令和3年度県新人大会で長崎市のチーム（選手）が1位・3位となった場合

- ① 令和4年度県中総体で長崎市に第1・第3シードが与えられる
- ② 地区シードのため、令和4年度長崎市中総体の1位・2位のチーム（選手）がそのシード枠の権利を得る
- ③ その場合、1位が第1シード、2位が第3シードとなる

各専門部の申し合わせ事項

バスケットボール

- 県新人大会のベスト4の地区をシードする。

バレーボール

- 県新人大会のベスト4の地区をシードする。

ハンドボール

- 県新人大会上位3チームの地区をシードする。

サッカー

- 県新人大会のベスト4の地区をシードする。

車式卓球

- 県新人大会のベスト4の学校をシードする。

ソフトボール

- 県新人大会のベスト4の地区をシードする。

ラグビーフットボール

- 県新人大会の成績を参考とする。
- 1回戦で同一地区が当たらないように配慮し、他はフリー抽選で決定する。

ソフトテニス

【団体戦】

- 県新人大会のベスト4の地区をシードする。

【個人戦】

- ① 3月の県春季選手権大会の結果を地区に置き換え、8本までシードする。
- ② 同地区や同一校が2チーム以上出場の場合は配慮する。

テニス

【団体戦】

- 県新人大会のベスト4の地区をシードする。
- 参加数が、3校以内のときはリーグ戦とし、4校以上のときは、トーナメントとする。
- 参加数が4校以内のときは、第2シードまでを決定し、残りは抽選とする。参加数が、5～7校のときは第3シードまでを決定し、残りは抽選とする。参加数が8校以上のときは第4シードまでを決定し、残りはフリー抽選とする。

【個人戦】

- ① 個人戦のシード権は、個人に与える。
- ② その年度に行われた長崎県中学生テニス選手権大会（5月）の結果をポイント化しシードを決定する。ポイントについては以下のとおりとする。

	シングルス	ダブルス（1人）
優勝	10	20（10）
準優勝	8	16（8）
ベスト4	6	12（6）
ベスト8	4	8（4）
ベスト16	2	

※ 長崎県中学生テニス選手権大会ダブルス出場者が県中総体でシングルスに出場する場合はこのポイントは有効にならない。

※ 同ポイントの場合は5月の大会で①長崎県中学生テニス選手権大会と同ペア②長崎県中学生テニス選手権大会にペアともにダブルスに出場③その他 の順でシード上位とする。

- ③ 参加数が、3名(組)以内のときはリーグ戦とし、4名(組)以上のときは、トーナメントとする。
- ④ 参加数が4名(組)のときは、第2シードまでを決定し、残りは抽選とする。参加数が、5～7名(組)のときは第3シードまでを決定し、残りは抽選とする。参加数が8～12名(組)のときは第4シードまでを決定し、残りは抽選とする。3～4シードの位置については、抽選とする。参加数が13～16名(組)のときは第6シードまでを決定し、残りは抽選とする。参加数が17名(組)以上のときは第8シードまでを決定し、残りは抽選とする。3～4シード、5～8シードの位置については、これも抽選とする。
- ⑤ なお、③の作成にあたっては、同一校・同一地区同士が初戦で対戦することがないように配慮する。

卓球

【団体戦】

予選リーグ6（A～Fリーグ・・・すべて3校）→6校決勝トーナメント進出

- 県新人大会のベスト4の地区をシードする。
第1シード→予選A1、第2シード→予選B1、第3シード→予選C1、第4シード→予選D1とする。
- 複数出場の地区が決勝トーナメントに勝ち上がった場合、2チーム出場の地区が二つの山に分かれるよう、リーグ戦の組合せを考慮する。3チーム以上出場の地区は上位1・2代表が二つの山に分かれるように、リーグ戦の組合せを考慮し、残りのチームはフリー抽選とする。

【個人戦】

- ① 県レベルの大会を参考に8シードは、同地区が勝ち上がった場合、同じ山には入らないようにする。また、同校の選手が準々決勝であたらないように配慮する。
- ② 1回戦で同地区対戦が2カ所以上にならないように配慮する。
- ③ 以下フリー抽選。

バドミントン

【団体戦】

- 県新人大会のベスト4の地区をシードする。

【個人戦】

- ① 県新人大会のベスト4の地区をシードする。(同一地区の1位、2位が準決勝で対戦することもあり得る。)
- ② ベスト8については、新人大会と異なる組合せになるように配慮し、抽選する。
- ③ 個人戦について、

同地区の1位と2位 3位と4位は左右2つの山に分ける。(決勝まで対戦しない分け方)

- ①～③の結果、同一校が同じ山に入ることがあり得る。

柔道

【団体戦】

- 県新人大会のベスト4の地区をシードする。

【個人戦】

- ① 県新人大会の上位4名の地区をシードする。
- ② 県新人大会の優勝者(地区)を第1シード、準優勝者(地区)を第2シードと固定し、第3シードは第2シードと同じ山、第4シードは第1シードと同じ山に入れる。
- ③ シード権が3者に与えられる場合、3番目のシード者は、3位、4位にかかわらず、2位と同じ山に入る。

【その他】

- 個人戦では、県新人大会のベスト4に入賞した選手が、地区中総体でも同一の階級に出場した時点でシード権が発生する。

剣道

【団体戦】

- 県新人大会のベスト4の地区をシードする。

【個人戦】

- ① 県新人大会の上位4名の地区をシードする。
- ② 地区1位生徒と2位生徒は決勝まで対戦しないように二つの山に分ける。(原則シード権を持っている場合はシード権を優先するが、1・4シードまたは2・3シードが同一地区生徒になる場合は配慮する。)
- ③ 初戦は1位生徒と2・3・4位生徒が対戦するようにし、出場選手数によって小さな山がある場合は、4位生徒・3位生徒をいれる。(但し、出場選手数・シードにより、同順位校同士が初戦で対戦する場合があります。)
- ④ その他はフリー抽選とする。

☆県新人大会の結果によりシードを決定しない競技(団体)☆

空手道

【団体戦】

- 長崎県中学校選手権大会(6月開催)のベスト4の学校をシードする。

【個人戦】

- ① 長崎県中学校選手権大会(6月開催)のベスト8の選手をシードする。
- ② 個人戦に複数(2～4)名出場の地区の代表のうち上位2名については、2つの山に分けて抽選を行う。(ただし、初回戦で同一地区の選手同士が対戦しないこととする)
- ③ その他はフリー抽選とする。

相撲

【団体戦】

- リーグ戦で行う。8チーム以上出場の場合は2パートに分ける。県中学校相撲選手権大会(6月開催)の団体戦における上位2チームを選考し、A・Bのパートに分ける。他はフリー抽選。諫早市の4チームを、2チームずつ別パートに分ける。2チーム出場の地区については、1チームずつ別パートに分ける。その際、各地区1位がどちらかのパートに偏らないようにする。

【個人戦】

- 県中学校相撲選手権大会(6月開催)の個人戦における上位選手を4名選出、シード選手として4つのパートに分ける。諫早市の4選手を、各パートに1名ずつ分ける。2名出場の地区については、その2名が同じパートにならないようにする。一つのパートに、各地区の1位選手が偏らないように配慮する。